



第4期中期目標・中期計画の中での インターナショナルオフィスの取組

副学長・インターナショナルオフィス長 原 直行



2022年4月から国立大学法人では第4期中期目標・中期計画が始まりました。中期目標は、文部科学大臣が大学の意見を聞き、6年間に達成すべき事項を定めたものであり、中期計画は、中期目標を達成するための計画を大学が作成し、文部科学大臣から認可を受けたものです。インターナショナルオフィスでは、中期目標「様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する」、そのうちの中期計画「学生に多様性の理解を促すため、留学・海外研修(オンラインを含む)等の交流活動に加えて、地域と連携した取組等により、グローバル教育環境を拡充する」を担います。

その評価指標として、以下の①～③の3つを定めました。順に説明します。

①受入留学生数、派遣日本人学生数、海外研修・海外インターンシップ参加学生数の増加:令和9年度末実績を第3期平均436名と比べて30%増加

これは第3期中期目標・中期計画の後継的な取組です。第3期の平均は436名でした。第4期の最終年度である令和9年度末にはその30%の増加である567名を目指します。具体的には、コロナの国内・海外における状況を見極めながら、留学生受入及び日本人学生海外派遣とともに協定校等と相互訪問による受入・派遣を推進するとともに、オンラインを活用した留学・研修等をも促進し、参加を促していきます。また、国際共同講義や国際シンポジウム・ワークショップを開催し、海外の学生および日本人学生の参加を促します。

②地域のステークホルダーと大学とが連携して実施するグローバル教育プログラム数の増加:令和9年度末実績を令和3年度末実績3件と比べて30%増加

地域のステークホルダーとの連携はこれまでも本学は熱心に取組んできましたが、グローバルとの関係でいえば少々取組が手薄でした。第4期では、地域のステークホルダーと連携して実施するグローバル教育プログラム数を令和3年度末3件から第4期には4件以上を目指します。具体的には、地域・産官学連携戦略室と密接に連携し、国際協力機関・自治体・企業・海外協定大学等と連携を強化しながら、地域でのニーズ調査等を実施し、それを踏まえて各プログラムを検証・改善を行うとともに、新たなプログラムを開設し、学生と地域が共修する機会を増やしていきます。

③グローバルな視点からの学生の多様性の理解、交流活動等による理解の変化及び行動変容を評価する仕組みの構築(定性的指標のため数値目標はなし)

学生の多様性の理解、交流活動等による理解の変化及び行動変容を評価する仕組みの構築は積年の課題でした。本学ではBEVIテストを導入し、留学する学生の派遣の前後にBEVIテストの受検を促します。BEVIテストとは、自分自身、他者、世界に関する自分の価値観を理解するために役立ち、そのような信条・価値観が学習や個人的成長にどのように貢献するのかについて内省するための助けとなるテストのことで、近年、国内外の多くの大学で導入されています。BEVIテストにより留学に関わる教育プログラムの効果を検証し、より効果的な教育プログラムを作っていくことを目指します。

上記のことは簡単に実現できるとは思っていません。いずれの評価指標もインターナショナルオフィスはもちろん、学内、学外、外国のステークホルダーと様々な連携を通じて、やっと実現できるチャレンジングな内容です。関係するすべての皆さんと引き続き頑張っていきます。

<国際交流活性化の推進>

グローバル・インスピレーション・イニシアティブ

「グローバル・インスピレーション・イニシアティブ」を1月26日(水)に経済学部講義「エコツーリズム論」とのコラボ企画としてハイブリッド形式で開催しました。

最初に、2022年度にドイツでのインターンシップを予定している大学院生から、学部生時代のドイツ留学での経験や反省、それを踏まえて帰国後に取り組んできたことと国際インターンシッププログラムへの応募、について発表がありました。

続いて、小豆島観光協会事務局長の塩出慎吾氏から「世界で通用する人材になるには」というテーマで、留学経験、就職した会社での仕事、フリーランスとしての諸外国での実績、小豆島へ移住の動機と現在の仕事等についてご講演いただきました。

参加学生からは、「留学の話を含めた実体験を話して下さったので、今後の就職活動やキャリアについて考えるよい機会となった」「価値観にとらわれないことの大切さを実感でき、自分を信じてやってみることが重要だと分かった」といった感想がありました。



グローバル・カフェのWorkshop

○グローバル・カフェ 2022年度後期授業

2021年10月4日(月)から2022年1月13日(木)まで、一般クラス計16クラスとTOEIC S&W 対策講座を開講しました。合計で95名の学生が登録しました。さらに、2022年1月17日から28日の期間には、香川県の観光名所や文化を理解する「Out and About in Kagawa」およびプレゼンテーションスキルの基礎を学ぶ「Academic Presentation Course」の特別短期講座を開講しました。

その他、毎週火曜日の昼休みに留学生・日本人学生が交代でプレゼンテーションを行うインターナショナルランチをオンラインで計10回実施しました。留学相談には合計で14名の学生から申込みがありました。

Global Café Autumn Semester 2021 (October 4th ~ January 13th)

Time	Mon	Tue	Wed	Thurs	Fri
10:30-11:30		English Discussion & Spanish 留学相談	Let's talk	Skill up English	Creative Writing
12:10-12:50	Model United Nations	IELTS (Speaking)	Photos/Videos Sharing Session	Destination:English	Malay
	French	International Lunch	TOEIC S&W (Speaking)	TOEIC S&W (Speaking)	TOEIC S&W (Speaking)
13:10-14:10	Tutor Time	Tutor Time	English Mix	Tutor Time	Tutor Time
14:50-15:50	Discussing Current Events and World News		Asian Cinema	Chinese	
16:30-17:30		Global Citizens			
18:00-19:00			TOEIC S&W (Writing)	TOEIC S&W (Writing)	

○TOEIC Speaking & Writing テストおよび対策講座

2021年12月18日(土)に幸町キャンパス総合情報センターのPCルームにてTOEIC Speaking & Writingテストを実施しました。当日受験できなかった学生には別日に機会を設け、合計で35名の学生が受験しました。なお、本テストを無料受験するための条件として、後期に開講した対策講座の受講を義務付けています。



○International Week

2021年12月8日(水)~12月14日(火)に、異文化理解促進のためのイベントとしてInternational Weekを開催しました。

1) 多文化テーマ講演

異文化を体験してきた方々をゲストスピーカーとして招き、幅広いテーマに関するプレゼンテーションをオンラインで行いました。オンラインでのプレゼンテーションには日本人学生31名、留学生3名、教職員30名、学外者8名の計72名が参加しました。

2) 第7回英語プレゼンテーションコンテスト

2021年12月12日(日)に「Coexisting in a Multicultural Society」(多文化共生社会)をテーマとして第7回英語プレゼンテーションコンテストを開催しました。日本人学生13名、留学生6名(中国、タイ、セネガル、バングラディッシュ)の計19名が、中級と中上級の2つのグループに分かれて発表を行いました。



多くの発表はお互いの文化を認め合い、違いを受け入れて生活をするべきだとの主張を、宗教、食べ物、スポーツ、家族関係など様々な視点から述べるというものであり、中には自分のアイデンティティーを扱っ

た発表や日本で感じる違和感について率直に述べた留学生の発表もありました。

3) 第3回英語俳句コンテスト

今年度も第3回英語俳句コンテストを実施しました。計54名からの俳句の提出がありました。なお、2021年12月12日(日)の英語プレゼンテーションコンテストにおいて、当英語俳句コンテストの表彰式も併せて行われました。

4) ミニ模擬国連

2021年12月14日(火)に「児童労働」をテーマに、ミニ模擬国連を開催しました。日本人学生5名、留学生4名(ルワンダ、ブルンジ、セネガル、ブラジル)の計9名が、9カ国(ブラジル、チリ、デンマーク、インド、ケニア、北マケドニア、ノルウェー、ウクライナ、アメリカ合衆国)の代表者として参加し、実際の国連における会議と同じように議論、交渉し、決議を採択するまでの一連の流れを、簡略化して行いました。



第1セッションでは、各国の代表者が自国の問題点を提起する「ポジションスピーチ」を行いました。第2セッションでは、各国から挙げられた主張を元に、自国の政策を順番に表明する「公式討議」に移り、その後一定の時間、他の代表者と自由に交渉を行う「非公式討議」が行いました。最後のセッションでは、各国の代表者から、法律・教育・経済の観点からの解決策が提出され、投票による採決を行いました。

5) サボア・モンブラン大学とのオンライン交流イベント

2021年12月10日(金)にサボア・モンブラン大学(以下USMB)とオンラインで交流イベントを開催しました。先方からはPolytech Annecy Chambéry(ポリテク・アヌシー・シャンベリー)の国際担当副学部長



Adrien Badel(アドリアン・バデル)教授とIUT Chambéry(IUTシャンベリー)の国際担当 Sylvie Neyertz(シルヴィー・ネイエルツ)教授が出席し、USMB全般の概要説明と各キャンパスについての紹介がありました。香川大学から教職員15名、学生2名の計17名が参加しました。

グローバル・カフェイベント

○スイスイイベント(2021年10月5日[火])

どのような経緯でスイスに国際連盟が設立されたのか、なぜスイスはSDGsと深い関係にあるのか、またスイスの国土や人々の生活の一端についてなど、クイズを交えながら理解を深めました。

○ハロウィンイベント(2021年10月26日[火])

ハイブリッド形式でハロウィンイベントを開催しました。楽しみながらリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング力が鍛えられるように、ハロウィンに関するクイズや早口言葉など様々なアクティビティを行いました。



○収穫祭イベント(2021年11月11日[木])

世界のさまざまな収穫祭が、いつ、どのように祝われているのか、食べ物や催し物など関連づけて紹介しました。今回取り上げた国はタイ、ドイツ、アメリカ、カナダ、イタリア、ガーナ、中国、インドネシア、インドです。また、イベントに向けて、11月1日(木)からグローバル・カフェにて、感謝したい人へのメッセージカードを展示しました。



○スコットランドイベント(2021年11月30日[火])

日本居住歴約30年のAndrew Caldwell教員はスコットランドにルーツを持っており、日本での旅行経験などをとおして気づいたスコットランドと日本の類似点がテーマとなりました。

○マレーシア映画イベント(2022年1月17日[月]・18日[火])

2日にわたって、グローバル・カフェにて「マレーシア映画イベント」を対面で開催しました。1日目は『Sepet』(日本語タイトル『細い目』)を鑑賞し、2日目にはその映画の解説およびQ&Aセッションを設けました。



映画解説では、マレーシア出身の教員から、主人公たちが直面する障壁(それぞれの家族の社会的地位の違い、イスラム教と仏教の考え方の違い、マレー系の民族が優遇される教育制度等)について具体的な説明がありました。

○学生主催イベント

2021年12月20日(月)に学生主催の年末交流イベントを対面で開催しました。当イベントは学生の国際交流サークルICESが企画・運営し、積木式自己紹介、ビンゴやプレゼント交換を楽しみました。



インターナショナルランチ

「International Lunch」は、日本人学と留学生との交流を促進することを目的とした取り組みです。2021年度はオンラインで、前期に11回、後期に12回、合計23回を実施しました。毎回、日本人学生と留学生が交代で好きなテーマについて、パワーポイント使用して、発表するを行います。参加者は各自オンラインで、お弁当などを食べながら、プレゼンテーションを聞き、質疑応答やディスカッションを行っています。延べ参加者数は197名で、留学生は114名、日本人学生は83名でした。

<外国人留学生対象行事>

さめきプログラムの実施

前号では、2021年度後期に、さめきプログラムの私費留学生は渡日できなかったものの、国費留学生が少し遅れて渡日してきた旨をご紹介しました。2022年4月、私費留学生5名が入国することができました。3名が国立嘉義大学(台湾)から、2名がチェンマイ大学(タイ)からの学生です。3月初めの時点では、渡日できるのかどうか全くわからない状態でしたが、中旬以降に急遽実現性が出てきて、実際にそれが叶い、大変嬉しく思っております。現在はそれぞれの日本語力に応じた日本語科目に加え、全学共通科目の「プロジェクトさめき」等を受講しています。残念ながら自国の状況等により渡日がかねなわなかった学生もおりますが、今後完全な形でプログラムが動かせるようになることを祈っております。

国費留学生の受け入れ

前号にて、2021年10月入学の国費留学生が執筆時点で6名入国・入学済みの旨、報告しました。その後、もう1名も14日間の健康観察を経て無事入学し、日本語・日本文化留学生4名(韓国1名、ブラジル2名、メキシコ1名)、日本語予備教育を受ける研究留学生3名(ブルンジ、ルワンダ、バングラデシュ各1名)、計7名が揃うことができました。

同時期に入学し留学生センターに所属する国費留学生数は、これまで、2014年度後期の4名が最多でしたが、2021年度後期は、コロナ禍にも関わらずセンター設立以来19年間で最多という、記録更新の嬉しい学期となりました。

2021年度後期日本語研修コース修了式

別項にあるとおり、2021年度後期は私費留学生の渡日が叶わなかったため、半年間の受入プログラムである「さめきプログラム」所属学生は残念ながらゼロとなりました。したがって、例年であれば日本語予備教育を終える国費留学生と半年間のプログラムを終えるさめきプログラム学生が合同で修了式を行うのですが、日本語研修(日本語予備教育)を終える国費留学生3名のための修了式となりました。



2021年2月16日(水)、対面にて3名の修了式を行いました。皆あいうえおから始めた日本語初心者でしたが、一人2~3分ずつの修了スピーチを全て日本語で行い、無事修了証書が授与されました。また、もう半年留学期間が残されている日本語・日本文化研修生4名も、折り返し地点を迎えての感想や今後の抱負を、同様に日本語でスピーチしました。

修了生3名は4月より医学研究科(2名)と2022年度開設の創発科学研究科(1名)にそれぞれ進学しましたが、皆忙しい研究の合間を縫って日本語学習を継続しています。

学長主催外国人留学生交歓会(新年会)

2022年1月20日(木)、各キャンパス(幸町、三木町医学部、林町、三木町農学部)の会場をオンラインで接続し、学長主催外国人留学生交歓会(新年会)が開催され、本学の外国人留学生、教職員、サポーター・チュー

ター、約70名が参加しました。

この行事は、学長主催により、母国を離れ異国の地で勉学に励んでいる本学の外国人留学生を励ますとともに、留学生相互、教職員等関係者との交流の輪を広げる機会として毎年開催しているものです。

今年もコロナ禍のため、昨年同様、各キャンパスで設定した会場間をオンラインで接続し、また、各会場においては、三密を避け、マスクを着用し、換気・消毒等、新型コロナウイルス感染防止策を徹底して実施しました。

留学生センターのOno De Alemeida Caio Yudji (オノ デ アルメイダ カイオ ユウジ) (ブラジル出身)さんとTabassum Nafisa (タバススム ナフィサ) (バングラデシュ出身)さんの司会進行のもと、学長及び原副学長による激励のことば、留学生代表の連合農学研究科のKwakye Alexandra Obenewaa (クワチアレクサンドラ オベネワ) (ガーナ出身)さんの挨拶により開始されました。そして、今年のメインプログラムとして、キャンパス毎の留学生によるパフォーマンス (母国の新年や料理を紹介した動画、詩の朗読、歌等)、各キャンパスの個性が十分に発揮されたパフォーマンスが披露され、参加者一同、楽しい時間を過ごしました。

また、「おたのしみ」として、留学生に対して、学長から「お年玉」の品がプレゼントされ、最後にロン留学生センター長による閉会のことばで交歓会を締めくくりました。

本学の留学生にとって、本会がコロナ禍による日頃の疲れや不安を払拭する機会となり、今後、より一層交流の輪を広げ、益々充実した留学生生活を健康で楽しく送ってくださることを願います。



外国人留学生等作文コンテスト

第18回のコンテストが行われました。県内在住の留学生・研修生・技能実習生等を対象に、本学が事務局を務める香川県留学生等国際交流連絡協議会が主催して実施しているもので、日本語初心者から応募できるよう、レベル別に募集・審査しています。

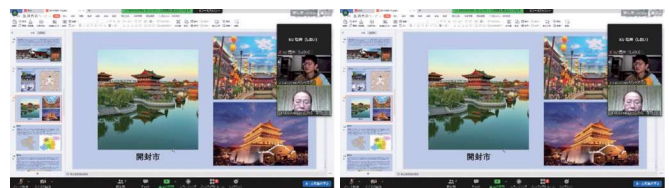
第18回では「SDGs達成のために私がしたいこと」「香川での出会い」の2つのテーマを設定、香川高等専門学校・香川短期大学・香川大学より計18名の留学生から応募がありました。特筆すべきは、例年数名の香川短期大学からの過半数の11名もの応募があったことと、応募者の出身がインド、インドネシア、韓国、スリランカ、タイ、ネパール、ブラジル、ベトナム、マダガスカル、モンゴルと非常に多様だったことです。コロナ禍で新規入国が制限されている中、本県の国際化の一端と今後の発展の可能性を見たように思いました。

優秀賞をはじめとする8名の入賞者が決まり、対面での表彰式を検討していたのですが叶わず、オンライン開催を検討するも各種調整が難航、結局今回初めて、賞状・賞品・審査委員による講評を所属大学窓口を通じて個別に贈呈する形となりました。皆で祝う場が持てなかったのは残念でしたが、多様な背景を持つ応募者からの力作揃いに、次回へ向けての期待は高まりました。

オンラインホームビジット

本学が事務局を務める香川県留学生等国際交流連絡協議会では、県内の留学生と地域社会の方々との交流を目的として年2回ホームビジット事業を実施しています。宿泊を伴わない1日のみの交流とは言え、諸活動に制限が課されるコロナ禍では実施が難しく、2020年度は中止としましたが、2021年度は8月に試行的にオンライン交流会として実施(前号にて報告)、好評だったため第2回もオンラインで実施することとしました。

2022年2月18日(金)夕刻、ホストファミリー 12家庭、留学生12名がZoomを用いて交流しました。前回は8家庭・留学生8名でしたから、どちらも1.5倍です。留学生の所属は穴吹ビジネスカレッジ(1名)、高松大学(1名)、香川大学(10名)、出身は中国・韓国・インドネシア・マレーシア・メキシコ・ブラジル・ブルンジ・ルワンダと多岐に渡りました。



交流中の様子

今回は、冒頭、ブレイクアウトルーム準備の時間を利用して簡単なアイスブレイクを取り入れました。参加留学生の出身国数当てクイズ、各母語での「こんばんは」の紹介等をしている間に準備が整い、ホストファミリーと留学生がそれぞれペアになりブレイクアウトルームで交流。短い休憩を挟んで後半は新たなペアで交流再開。楽しいひと時となりました。

<リクルーティング>

進学説明会

前号で紹介した通り、インターナショナルオフィスは2021年度も多くの、オンラインを含む留学生対象の進学説明会に参加しました。説明会のシーズンはある程度決まっております、日本国内で開催されるものは、一部例外を除き9月ごろに終了しますが、海外で実施されるものは異なる時期に実施されるものもあります。前号の発行後に、協定大学であるガジヤマダ大学（インドネシア）より、Overseas Education Expoへのお誘いを受けました。このイベントは、同大学の国際課および Buddy Club により主催されるオンラインイベントで、各国の協定大学に参加が呼び掛けられました。2022年2月19日、20日および26日、27日の4日間開催される中で、本学は27日に参加しました。幸運なことに会場が2つに分かれていないスロットを割り当てられたこともあり、多くの学生が参加してくれました。本学の一般的な情報提供の後、交換留学プログラムであるさぬきプログラムの内容を中心に説明しました。



<日本人留学生増加のための取り組み>

海外での有事における

危機管理対応シミュレーション訓練を実施

2021年12月22日（水）13:30から香川大学多目的ホール（幸町キャンパス OLIVE SQUARE2階）において、海外での有事における危機管理対応シミュレーション訓練を実施しました。

このシミュレーションは、本学における国際交流を推進する過程において発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ確に対応するための意識・知識等を高めることを目的として、新たな変異株の感染拡大が懸念される中、参加者を限定し縮小版で実施しました。

当日は、日本エマージェンシーアシスタンス株式会社から3名の講師を招き、今井田理事（教育担当）、真鍋理事（総務・労務担当）、原副学長（国際戦略・グローバル環境整備担当）、長山経済学部長をはじめ、本部及び経済学部関係教職員約40名が参加しました。

シミュレーション訓練は、欧州留学中の本学学生がドイツ・ベルリンでテロに巻き込まれた可能性があるとの想定で始まり、初期対応では、安否確認、緊急連絡網による関係職員・幹部等への連絡、被害学生保護者対応等の演習を行いました。その後、危機対策本部を設置する重大事案となり、海外現地への教職員・被害学生保護者の派遣、現地関係機関等との連携、メディア役に扮した職員による模擬記者会見まで、約3時間にわたり次々と入ってくる現地情報等をもとに演習を行いました。訓練の最後に、講師から、初期対応の大切さや「大きく構えて小さく収める」ための7つのポイント等の助言・講評がありました。



シミュレーション会場



模擬記者会見

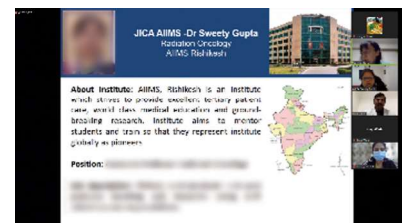
<他機関との連携活動>

JICA研修員受入事業の実施

独立行政法人国際協力機構（JICA）の研修員受入事業は、開発途上国から人材を日本に招き、それぞれの国が必要とする知識や技術に関する研修を行う事業です。

JICAからの委託を受け2021年度には、下記のとおり短期研修4コースと長期研修員（留学生）1名の受入れが実施されました。

新型コロナウイルスの影響を受け、短期研修はすべてオンラインで実施されました。各コースでは、オンラインでの実施にかかわらず研修員の満足度は非常に高いものとなりました。



- ・国別研修（インド）「全インド医科大学人材育成研修」 14名
2022年1月17日～3月4日 医学部
- ・青年研修「バキスタン/防災」 12名
2022年1月11日～1月26日
四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
- ・JICA日系社会研修「小規模食品ビジネス開発」コース 7名
2021年10月15日～12月16日 7名

- ・日墨戦略パートナーシッププログラム
「ベンチャー創出とイノベーション・エコシステムの構築」 4名
2023年5月10日～12月26日 創造工学部
農学部/インターナショナルオフィス 4名
- ・JICA長期研修員1名新規（バブアニューギニア） 農学部
2021年9月～2023年9月

JICA四国でのインターンシッププログラムへの参加について

2021年度の夏休み期間中3週間、JICA四国センターでインターンシッププログラムが実施され、他大学の3名の学生とともに、大学院医学研究科より1名参加されました。

オンラインでの実施となりましたが、2021年12月に開催された「栄養サミット」に併せた動画の作成、長期研修員へのインタビュー・JICA四国の活動等記事のJICA四国SNSでの発信、JICA四国関係者へのインタビュー等を実施し、国内で行われている政府開発援助途上国や日本が抱える問題や課題や将来国際協力に携わるために必要な事等を学ぶことができたとのことです。

ビーチクリーニング活動

インターナショナルオフィスは、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」に取り組んでおり、留学生・日本人学生が参加できる活動を外部機関とも連携して提供しています。その一環として、2021年11月27日、第7回庵治なビーチクリーンを実施しました。日本側の主催は「庵治なビーチクリーン実行委員会」であり、香川大学インターナショナルオフィスと瀬戸内圏研究センターが共催しました。主催する会の代表が本イベントの背景を説明し、原副学長（国際戦略・グローバル環境整備担当）の挨拶が続きました。今回はチェンマイ大学（タイ）と国立嘉義大学（台湾）と連携し、3か所で同時に清掃活動を実施しました。



目的は、環境ごみ収集と国際海岸クリーンアップの手続きに基づく調査を通して、①内陸、海洋、河川のプラスチックごみによる影響への意識を深め、②タイ・台湾・日本の国際関係および生活様式や文化の理解を涵養し、③実施場所の3大学・学生・地域コミュニティ間の関係性と協力を作り上げることです。

清掃場所については、本学は瀬戸内圏研究センターマリンステーション側の鎌野海岸でした。チェンマイ大学は新型コロナウイルス感染症の影響で他の場所に移動できなかつたため、キャンパスで実施しました。国立嘉義大学は鰲鼓湿地でした。

本学学生の参加に関しては、国際共同研究支援事業の資金を得ることができたため、13名の学生（留学生10、日本人学生3）がバスを利用して参加し、実行委員会の皆様に加えて、地域の方々とも活動を通して交流することができました。上記の学生を含む香川のグループ全体では、31名が参加しました。チェンマイ大学のグループには学生45名（卒業生も含む）、教職員10名の計55名、国立嘉義大学のグループには学生13名、その他32名の計45名が参加しました。

<地域との連携・交流>

三木高校生インターンシップの受入れ—成果報告会

2021年度インターンシップの成果報告会を2022年3月30日（水）にグローバル・カフェにて実施しました。三木高校総合学科2年生4名のインターンシップ生たちが、半年にわたっての活動を振り返り、気づきや学び、反省などを発表しました。インターナショナルオフィス教員たちからは発表内容に関して、踏み込んだ質問があり、生徒たちはそれぞれ真摯に答えていました。三木高校からは校長先生をはじめ7名の教員が参加し、生徒たちの成長を実感されていました。



留学生への支援 コロナ禍における食料支援（野菜提供）

有限会社渡辺エンタープライズ様※（野菜、果物の卸売業を営む）から、昨年度に引き続き、月に1回のペースで野菜と果物のご寄附をいただいています。

コロナ禍の影響を受け、アルバイト収入や母国からの仕送りが減少している留学生からは、「大変な時期に支援を頂き本当にうれしいです。自炊しているので助かります。」と毎回感謝の声が届いています。



1月27日の様子

<留学生の声>

日本語研修コース修了生の修了スピーチより

別項で紹介した留学生3名の修了スピーチより抜粋して紹介します。

Zina Anne (ブルンジ)

かがわの せいかつは いいです。かがわの ひとは しんせつな ひとです。にほんごの べんきょうは あまり むずかしくないです。そして、とても おもしろいです。いま わたしは ゆっくりとたべものになれています。

ここで べんきょうすることは わたしにとって すばらしい きかいです。わたしは じぶんの ゆめを じつげんすると しんじています。



Tabassum Nafisa (バングラデシュ)

わたしは わたしの くにの Independentだいがくで びせいぶつの けんきゅうしゃでした。びせいぶつがくの けんきゅうが だいすきです。はくしごうは わたしの ゆめです。だから わたしは にほんに きました。にほんは びせいぶつがくの けんきゅうで ゆうめいです。

(中略)

ここで べんきょうする きかいを あたえてくれた じょうしと かがわだいがくに かんしゃします。かがわだいがくは わたしにとって とくべつな そんざいです。



Munyeshyaka Emmanuel (ルワンダ)

よびきょういくコースは しゅうりょうしました。これからは いがくけんきゅうかで けんきゅうすることになります。にほんごを べんきょうしつづけたいと おもいます。さいごに、わたしがここに とうちゃくして いろいろ、さまざまな ほうほうで わたしを たすけてくれた すべてのひとに かんしゃしたいと おもいます。ロンせんせい、たかみずせんせい、しおいせんせい、おのえせんせい、チューせんせい、そして こくさいグループの みなさん、どうもありがとうございました。



インターナショナルオフィスからのお知らせ



左：後藤 麻美 (留学生担当)、
中央：平岡 桂子 (課長)、
右：浜口 美紅 (留学生担当)

新たに国際課に配属となりました。
留学生をはじめ、日本人学生の留学
支援も行っています。お気軽にお立
ち寄りください。

香川大学
インターナショナルオフィスニュース
第26号 2022年(令和4年)6月20日

香川大学インターナショナルオフィス
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel : 087-832-1318 Fax : 087-832-1192
E-mail : soryucet@jim.ao.kagawa-u.ac.jp
URL : <https://www.kagawa-u.ac.jp/kuio/>
留学生センターfacebook
URL : <https://www.facebook.com/KUISC>
グローバル・カフェfacebook
URL : <https://www.facebook.com/GlobalCafeKagawaUniv>